

- 公共施設は、地域の景観を形成する大きな要素の一つです。
- 山梨県 景観づくり推進室では、景観に配慮した公共施設の設計を実践的に習得するために、平成26年度から『景観設計職員研修』を実施しています。  
第4回目となる平成29年度からは、「山梨県建設コンサルタンツ協会」、「山梨県建設技術センター」の共催により、本研修会を開催出来る運びとなり、研修の目的は同じくして、名称を『公共事業景観デザイン研修』と変更し、継続的に実施研修を開催しております。
- 対象者：県公共3部（森林環境部、農政部、県土整備部）職員、県観光部職員、県内市町村職員  
山梨県コンサルタンツ協会会員
- 講師：堀 繁 氏（一般社団法人まちの魅力づくり研究室 理事）
- 研修概要：1. 講師より「景観の基礎」について講義。  
2. グループ演習により、受講者自ら景観に配慮した設計を行う。  
3. 現地研修を行い、講師より「良い景観」「悪い景観」の解説。（H29年度まで）

#### 【H30年度実績】

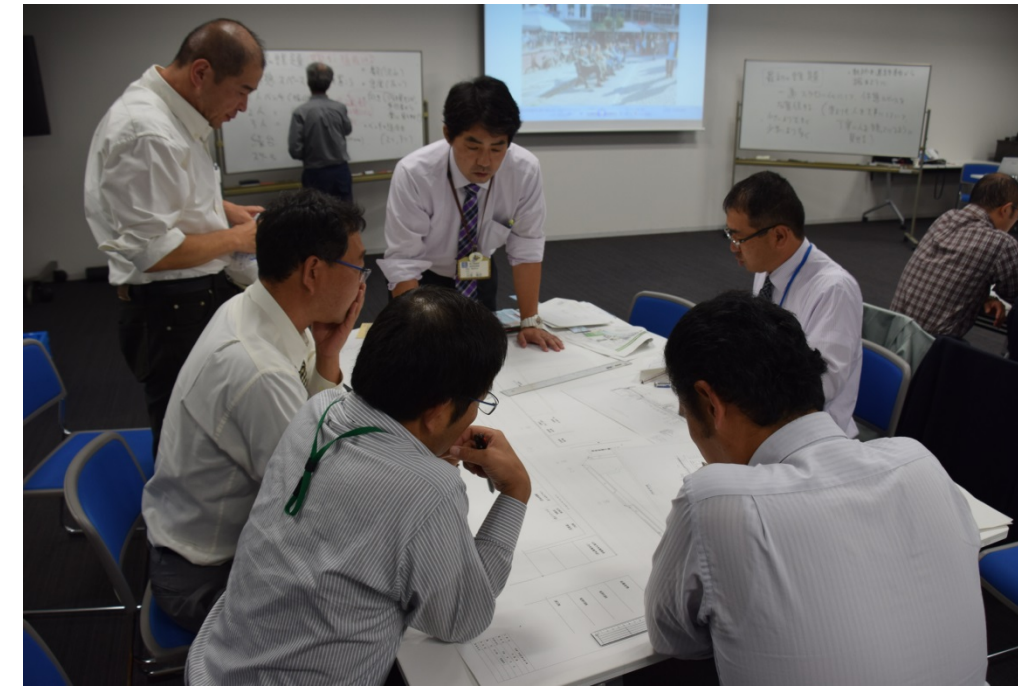
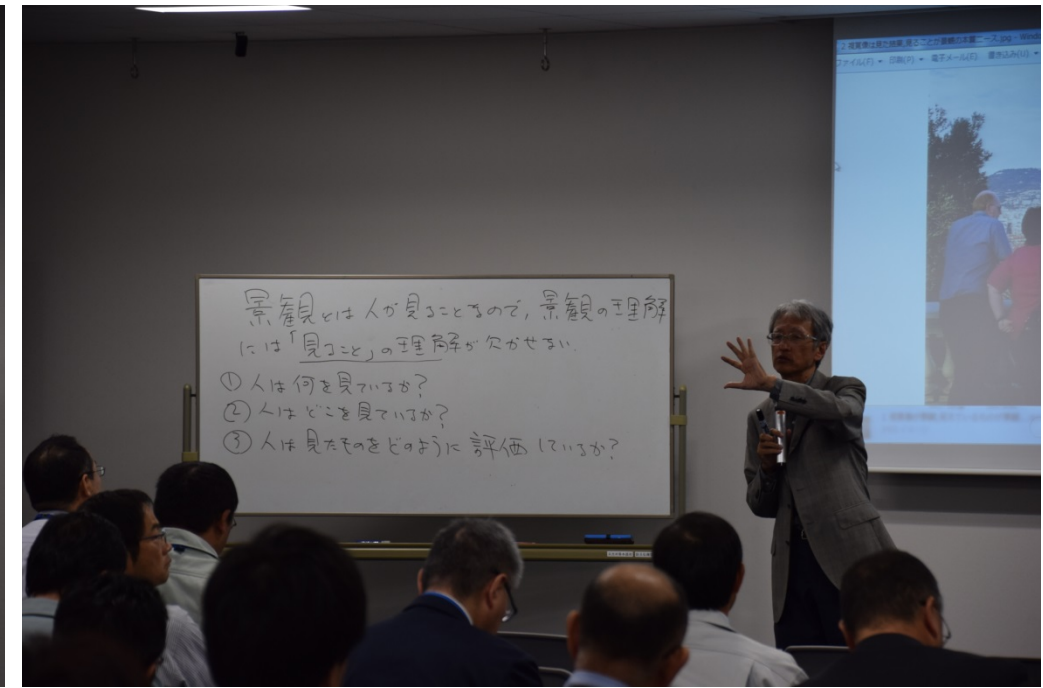
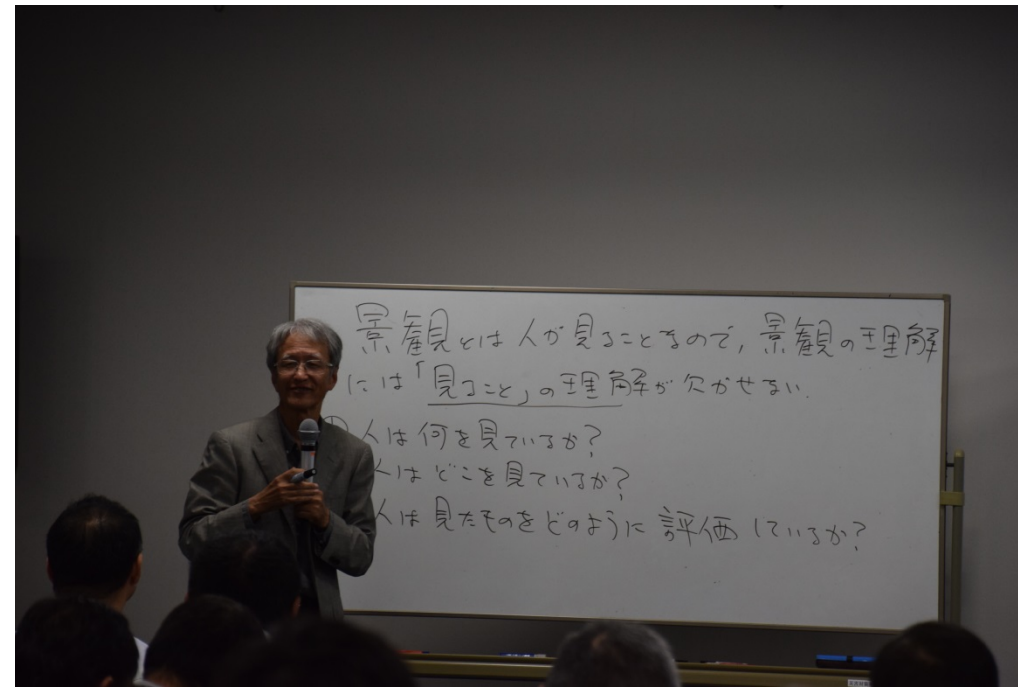
- 参加人数：47名  
（うち市町村職員12名・建設コンサルタンツ協会9名）  
（講演①に関しては、上記参加者を含め 90名）
- 研修スケジュールは、右記のとおり

#### ※詳細時間割

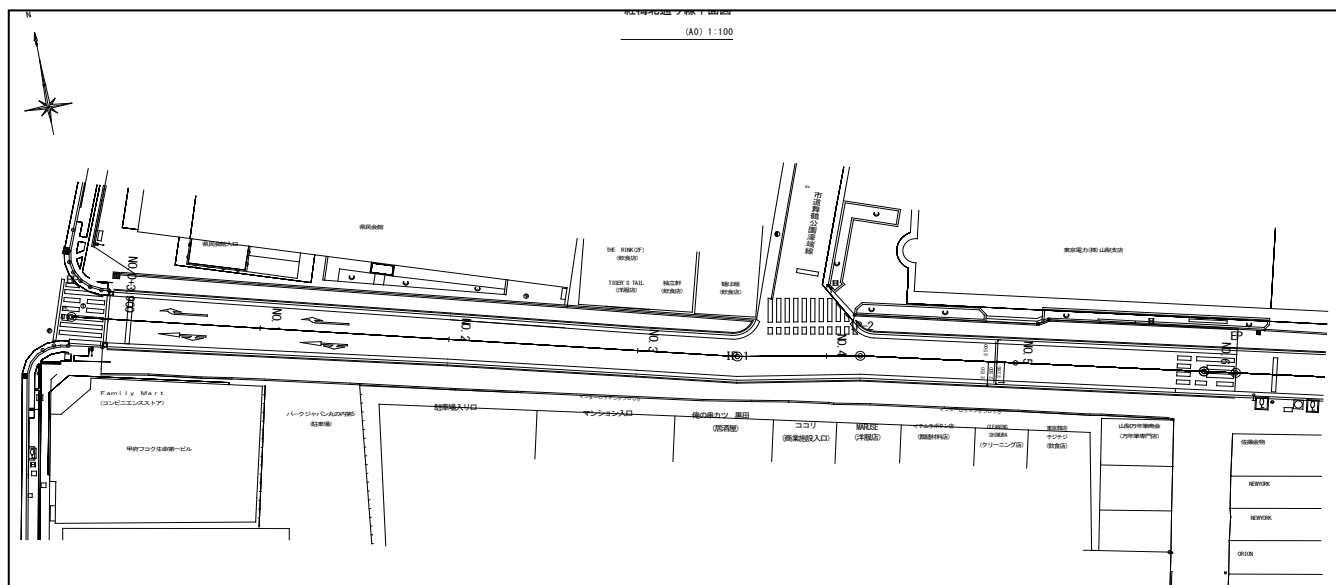
10月19日（金） 【約6時間】	
講演①「景観と公共整備」	9:00~12:00 (180分)
（昼食 12:00~13:00）	
グループ演習	
・演習説明①	13:00~13:10 (10分)
演習①「景観から考える街路の魅力づくり」	
・班別作業（車道線形スラローム、休憩スペース確保）	13:10~14:00 (50分)
演習②「景観とまちの魅力から考えるベンチの重要性」	
・班別作業（ベンチ設置）	14:00~15:00 (60分)
・発表（車道線形スラローム 休憩スペース確保、ベンチ配置）	15:00~16:00 (60分)
（各班 4分程度×9班）	



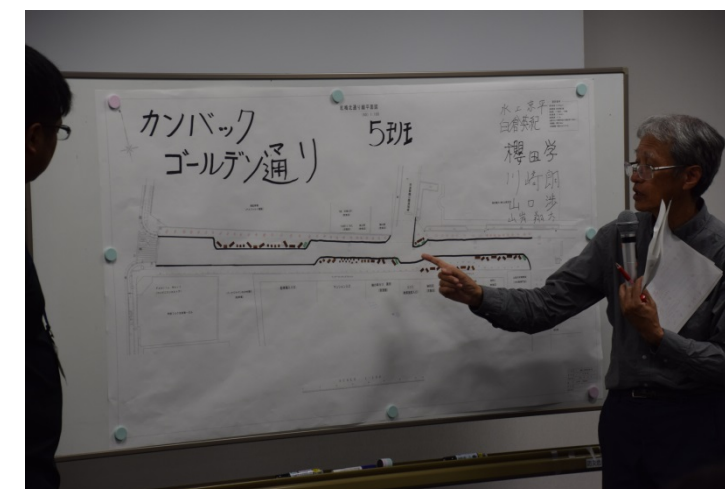
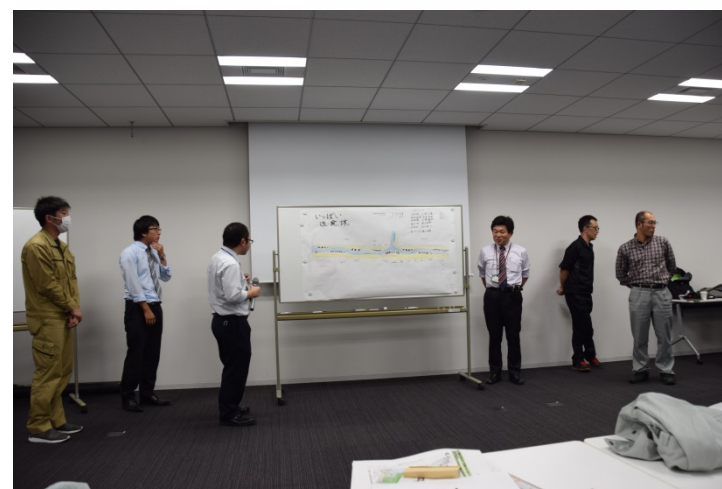
# 研修会の様子



[元図面]



グループ演習の結果、ホスピタリティにあふれた道路空間となりました。



[紹介事例：道路線形の変更と休憩スペースを設けた平面図]



車道をスラローム化し、自動車の走行速度を軽減することで、歩行者をもてなします。

ベンチの両脇に街路樹を置くことで、自己領域を形成し、居心地の良い空間となります。

ベンチに座って楽しそうにしている人達を見ることが、歩行者も楽しい気分になります。

◎今まであいまいだった景観について理解を深めることができた。

◎これまでの景観という意味の思い込みが覆された。

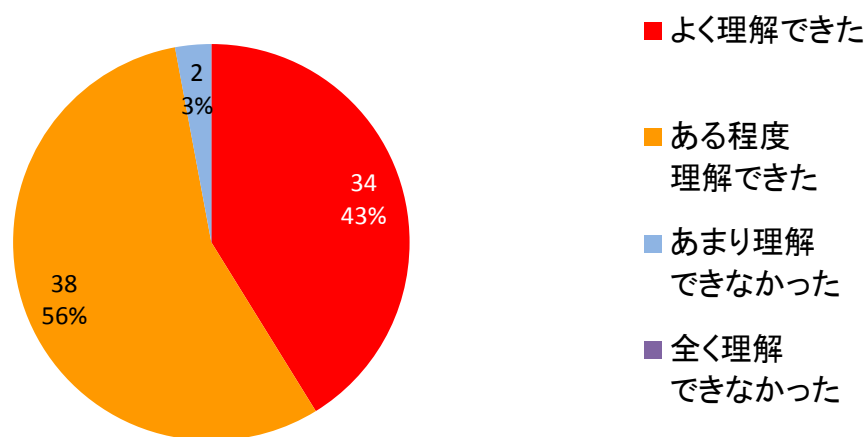
◎これまでに行ってきた業務では、車を主として利用しやすい道路を作ることを目的としていたため、歩行者の視点に立つということ考え方が広がった。

◎景観がモノではなく、“見ること”であると分かり、街並みの見方が変わった。

#### Q1.講演会について

「景観と公共整備」

「景観から考える街路の魅力づくり」



#### Q2.グループ演習について

「紅梅北通り平面線形検討」

参加人数: 47人  
有効回答: 33人

